

素材コンサル軸に農・食展望

京田辺 マスク、ストラップ寄付も

京田辺市興戸に拠点を構えるNMR(New Material Revolution)代表取締役の孫恩喆(ソン・ウンチョル)さん(46)はコロナ禍の昨年、市と市商工会に高性能マスクとマスクストラップ、消毒材を寄付した。韓国・慶山市に生まれ、その後京都大学で研究。積水、サムスンといった日韓の大手メーカーで重職を担い、独立後も多方面で創造性を発揮して、社会貢献の気持ちも強く持つ。妻は地元でハンクル教室を開き、「日韓の架け橋たらん」と、あすを見据える。

城陽市の姉妹都市でもある韓国慶尚北道・慶山市出身の孫さんは、慶北大学大学院理学部化学科を卒業後、京大工学研究科で工学博士号を取得。宇治キヤンパスで物質エネルギー化学、カップリング反応研究などを進めた。

8年在籍した横水化学工業(株)では、携帯電話に使用されるディスプレイ用接着剤の開発などに当たり、サムスンディスプレイ(株)に移ると、開発部長として研究や折衝が相次ぐ。休まらない日々をソウルで過ごした。この間、ディスプレイ用接着剤やスマホ(ディスプレイ)モジュールの進化を支え続けた。

現在、高校生と中学生の子供2人は日本で生まれ育ち、ソウル在任時は現地の日本人学校に通った。2019年10月、サムスンの部長職を辞し、NMR(株)設立。積水(材料供給者)、サ



マスクストラップを手にする孫さん

大化学研究所・中村正



マスクとストラップを京田辺市へ寄せる

治教授とも信頼関係は厚い。けいはんなプラザ「精華町」に構える(株)シーリアクトでは事業部長として、鉄触媒による精密有機合成の研究開発を進め、新たな材料の商品化を目指す。「ずっと研究をやっている」と振り返る孫さんは「大企業では忙しくて余裕がなくなってきたことをやりたかった。人の生活に役立つものを扱う」と盛んな海外展開も視野に入れる。

宇治市子ども会連絡協

クリスマスで福

「新春子ども

宇治市子ども連絡協議会(齋藤和男会長)の「大開城南荘第五町内会」は昨年末、町内の集會場でミニクリスマス会を開催した。約10人の子供たちが密を避けながら、楽しいひとときを過ごした。

会場ではプラスチックゴミをテーマにした絵本「プラスチックのうみ」をみんなで読み、環境を大切にす

気持ち学んだ後、白地の手提げ袋にクレヨンで好きな絵を描き、マイエコバッグを作成。おやつにはクッキーを生クリームやチョコレートなどで飾った。お菓子の家を作った。

また、赤い羽根共同募金についても説明。福祉の心を学び、会場で募金を募った。募金は子供たちが先月28日

NMR株式会社 代表取締役 孫 恩喆
 “2021年1月10日 落タイ新報に掲載”